

ているらんぷ

第11号(2019年3月31日発行)

自動車部創部 60周年記念号



60年の時が流れて車も環境も変わってきた

しかしながら我々の車への情熱は変わらない！！



<掲載内容>

はじめに	2頁	中締め、集合写真	26頁
自動車部のあゆみ	2～5頁	寄せ書き	27～28頁
会長挨拶	5～6頁	参加できなかった方の連絡	28頁
記念挨拶、メッセージ	6～9頁	旧キャンパス見学ツアー	29～31頁
部活動の写真	9～14頁、19～20頁	パーティーのスナップ写真	32～33頁
参加者挨拶	14～18頁、21～25頁	編集後記	33～35頁

我が自動車部は、昨年(2018年)創部60周年を迎え、去る2月2日(土)に渋谷東急REIホテルで「創部60周年記念パーティー」を開催しました。

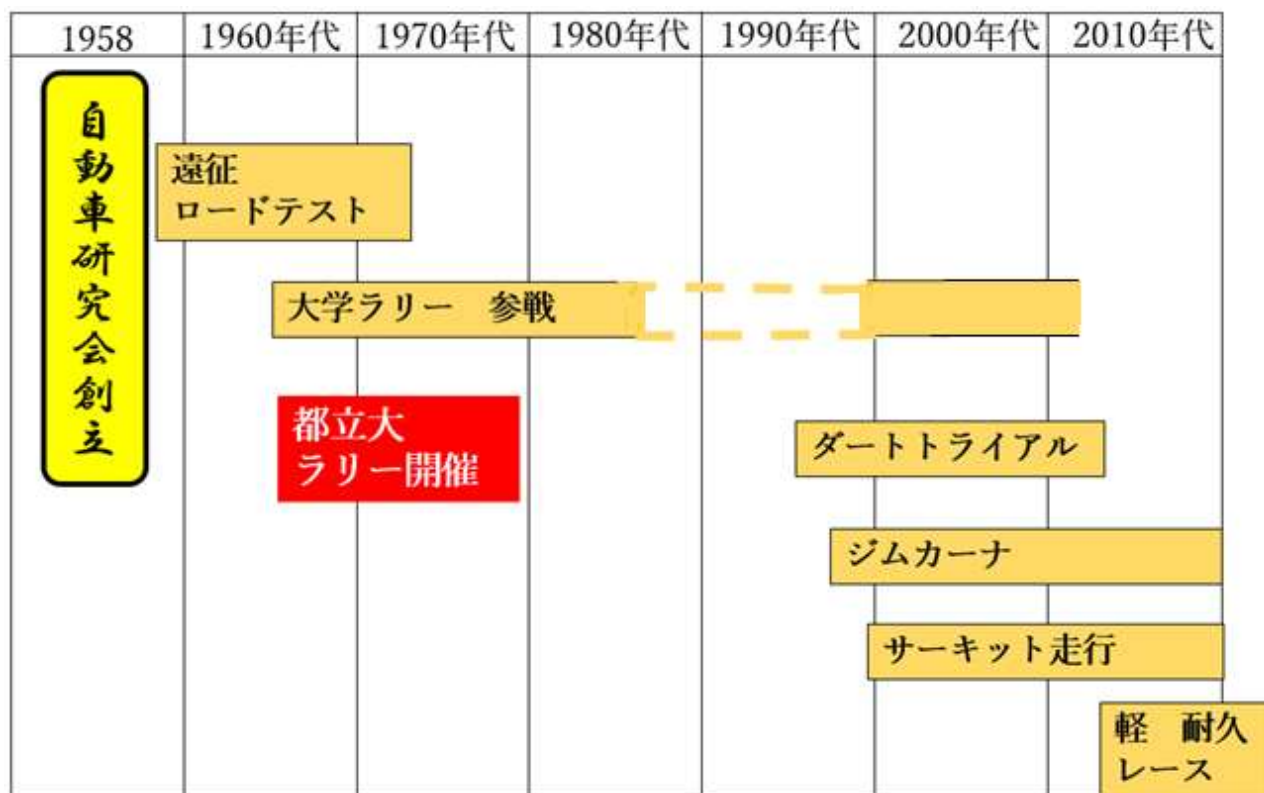
出席者は総勢60名。元監督、元顧問をはじめ、創立メンバー他OB&OGが51名、府大OB1名、それに現役部員8名が参加し、会場は笑顔に包まれ大いに盛り上がりました。

その余韻が冷めないうちに、今回の記念行事のあらましを出来る限りリアルに再現して、パーティーに参加できなかった皆さんにも「自動車部60年の歴史」をじっくり振り返っていただけますようこの「ているらんぷ特別増刊号(60周年記念特集)」を発行いたしました。

ページをめくるにしたがって、今更ながら「自動車部60年の歴史の重み」を実感していただき、世代を超えた皆さんの「車好きのDNA」が一層よみがえってくることを期待しています。

<自動車部60年の歩み>

-1 活動の推移



－2 年表

年	遠征	府大戦	合宿	モータースポーツ競技	主将名
1949					
1950					
1951					
1952					
1953					
1954					
1955					
1956					
1957					
1958	自動車研究会設立 第1回遠征				君塚
1959					
1960	遠征 1回				
1961					
1962					
1963		交歓会			
1964	府大戦はオープン参加(勝敗なし)				
1965	遠征 1回	勝	夏合宿 山中湖	ラリー出場:不明 勝:0	
1966	校外練習 2回 遠征 1回	勝	春合宿 山中湖	ラリー出場:8、優勝:4	
1967	校外練習 2回	勝	春合宿 山中湖 夏合宿 山中湖	ラリー出場:2、優勝:1	坪井
1968	校外練習 9回 遠征 1回	ノーゲーム	春合宿 山中湖 夏合宿 山中湖	ラリー出場:11、優勝:4	小佐野
1969	校外練習 12回 遠征 1回	中止(学生運動)	春合宿 山中湖 夏合宿 山中湖	ラリー出場:12、優勝:7	小河
1970	校外練習 9回 ロードテスト 2回	勝	春合宿 山中湖 夏合宿 山中湖	ラリー出場:9、優勝:2	加藤
1971	校外練習 10回 ロードテスト 2回	勝	春合宿 山中湖 夏合宿 山中湖	ラリー出場:11、優勝:4	篠/中野
1972		勝	春合宿 山中湖 夏合宿 山中湖	ラリー出場:7、優勝:2	波多野/ 配野
1973		勝	春合宿 山中湖 夏合宿 山中湖	ラリー出場:6、優勝:4	中山
1974		勝		ラリー出場:3、優勝:3	浜田
1975		勝		ラリー出場:5、優勝:3	武元

1976		勝	夏合宿 山中湖		大藤
1977		勝	夏合宿 猪苗代		永嶋
1978		負		ラリー出場:4、優勝:0	永嶋/ 佐藤
1979		勝	夏合宿 山中湖	ラリー出場:不明 優勝:1	佐藤康典
1980		負		ラリー出場:不明 優勝:1	
1981		勝		ラリー出場:不明 優勝:1	武井
1982		勝		ラリー出場:不明 優勝:1	大根
1983		勝		ラリー出場:不明 優勝:0	野田
1984		負			藤崎
1985		勝			
1986		負			
1987		勝			
1988		負			
1989		負			
1990		勝			
1991		負			
1992		勝			
1993		負			
1994		負			
1995		勝			青木
1996		負			赤嶺(勝)
1997		勝			佐藤
1998		勝			金子
1999		引き分			金子
2000		負			田中(千)
2001		負			芥藤(弘)
2002		負			芳賀(隆)
2003		勝			吉原
2004		負			
2005		負			
2006		負			
2007		勝			
2008		勝			
2009		負			
2010		負			
2011		負			
2012		負			奥山

2013		勝			佐野
2014		勝	妙高高原		渡邊
2015		勝	妙高高原		渡辺
2016		負	妙高高原	軽耐久	吉川
2017		勝	妙高高原	軽耐久	伊東
2018	府大戦は大雨中断		妙高高原	軽耐久	伊東
2019					池田

< 記念パーティー >

ー1 会長挨拶

岡崎 (1968 年入学)

本日は遠くは九州、沖縄から、また草分けの頃の大先輩から現役の学生部員、永遠のライバルの大阪府立大学の方など 60 名余りの方々に
お集りいただきありがとうございます。会長をしております岡崎です。昭和 43 年に入学し 47 年に無事 4 年間で卒業しました。在学時は何時、部が出来たのかという事など考えてもいませんでした。OB 会を再
建して 5 年を経過し過去を振り返った時、自動車部の始まりについて
調べたところ、昭和 33 年(1958 年)に工学部自動車研究会として発足
し、その後自動車部となり、体育会自動車部となって現在に至っています。
その時々事は、この後のスピーチに任せ、歴史を振り返る事が出来る事でしょう。



私が社会人になり、「大学時代は何をしていたの?」という事を聞かれたとき、「自動車部です」
すると「自動車部ってなにをするの」、「古い車を直して走らせる」「それだけ?」、「山の中を走り回
る」「走るだけ?」、「ラリーに参加します」。この辺から話が面倒になってきて、自動車部の魅力
について伝える事が出来ない事が多くありました。

今回、開催するにあたり、過去からの記録や写真を編集して見て感じたのは、時代により活動
内容が変わっています。修理して走り回り、ラリーをやり、ダートトライアル、ジムカーナ、最近
は軽自動車の耐久レースなどに取り組み、次第に変わってきました。その時代、時代にあったこと
を取り組んできています。活動内容は違っていても、自動車に対するあこがれであったり、どのよ
うに使いこなすか、自動車の可能性を試したりという事は変わりなく続いてきています。こちらが他
の体育会のクラブとの違いだろうと思います。

中学時代の友人と昨年久しぶりに会った時、武蔵大学の自動車部は消滅したという事をさみ
しそうに話していました。都立大学の自動車部は良く続いてきたと思いました。なぜ長く続いたの
かは先ほど話しました車への情熱もありますが、良き仲間が集まってきたからでしょう。ここに集ま
った方たちは、**学部〇〇学科というより、自動車部を卒業したと話せる方々だと思ひます。
今日はその良き仲間が集まっていますので、その熱い気持ちを語り合ってください。

今回、開催するにあたり頑張って企画しました幹事をご紹介します。

副会長の小島さんです。1969 年入学ですが人より長く自動車部に在籍し、また OB 会の再
建にも貢献していただきました。もう一人の副会長は 1970 年入学の河本さんです。OB 会の再
建と今回の資料整理など中心となって活躍していただきました。1968 年入学の佐々木さんです。

復刻版ているらんぷの編集長をお願いしています。原稿を依頼されましたら気持ちよくご協力してください。1971 入学の坂巻さんです。会計を担当しています。大事な金庫番です。1972 年入学の山崎さんです。幹事会などの書記とドライブツアーのコース作成を担当しています。1995 年入学の佐藤さんです。会場探しなどに協力していただいています。1999 年入学の斉藤さんです。忙しい中、企画などに協力してもらっています。2000 年入学の芳賀さんです。一番若いので、かなり気を使ってくれています。最後に、監査役の小西さん 1967 年入学で、OB 会がミスコースしないよう気を配っていただいています。

一 2 記念挨拶

渡辺 (1955 年入学)

ご紹介いただきました都立大学昭和 34 年 (1959 年) 卒業の渡辺でございます。

何はさて置き、首都大学東京自動車部創立 60 周年おめでとうございます。また、ご出席頂いておられる先生方並びに OB 会を立ち上げ、卒業部員の親睦や現役部員との交流を円滑に進めて下さり、本日の記念パーティーを計画して下さった幹事の方々に厚く御礼を申し上げます。

振り返れば今から 61 年前の 1958 年 - 私共が大学 3 年生でしたが - 当時のプリンス自動車から寄贈を受けた中古小型トラックが学内に現れたのが、自動車部 (当時は研究会と呼んでいたと思いますが) を立ち上げるきっかけでした。この間の事情は私と同期の君塚氏が書かれた同窓会報に当時の工学部長・石川先生からのお薦めがあったと書かれています。

当時の社会情勢はその 4 年前の 1954 年から続いていた高度経済成長、いわゆる神武景気時代の真ただ中で社会全体が活気を帯びていました。とは云うものの当時の大学卒の入社初任給は凡そ 1 万 2 千円前後で、市販されていたトヨペット・クラウンの価格はそれの約 80 倍の 98 万円、少し遅れて大衆車として登場したスバル 360 ですら約 30 倍の 37 万円で、自家用車を持つことなど夢のまた夢の時代でした。このように庶民生活と自家用車との距離は遠く、運転免許証を持っていた仲間は殆ど無く、前にお話ししたプリンスの小型トラックを校庭で乗り回し運転の勘を養うことが、最初の部活動と言っても過言ではない状況でした。ただエンジン始動の際セルモーターが上手く作動せず、車の前面に降りて手でクランクを回して始動させるなど、今では全く想像も出来ない経験をすることを出来ました。運転免許取得には、幸い鮫洲の運転試験場と運転教習所が当時の工学部に隣接して在ったため、授業の空き時間や放課後を利用して短期間の内に全員が免許保持者になることが出来たと記憶しています。

学生にとって幸いであった事は企業の求人意欲は旺盛で各企業は新卒者の採用に躍起になっていた事でした。このような社会環境の中で先生方の薫陶を受けられた人材が、企業の要職に就いて居られた事と相まって俗に言う売り手市場を呈していました。

自動車部の最初の遠征が紀伊半島一周として計画されたのは、遠征に使われる車両をトヨタ自動車から無償貸与して頂いたことと、燃料のガソリンを工業化学科教授の永井先生の教え子が勤務されていた東亜燃料工業・清水および和歌山製油所、大協石油四日市製油所の所在地を考慮に入れたものでした。即ち東京 - 清水 - 岡崎 - 和歌山 - 四日市 - 東京の順に、ご挨拶とガソリンを無償提供して頂く、今考えれば全く虫の良い計画でした。

トヨタ自動車から貸与して頂いた車は中古ではあるものの、当時の最新鋭と言われていたトヨペット・クラウン(水冷直列 4 気筒 OHV 排気量 1.5 ㍓ 3 速手動変速機出力 48ps)3 台でした。

1959 年、遠征の初日 1 月 2 日は雪に見舞われ、加えて大学の箱根駅伝とも重なり当初予定の箱根越えを避け、小田原から熱海への旧道を走った筈ですが、あの雪道をどのように無事通過したのか記憶が途切れています。

当時は一級国道である東海道ですら道路の凹凸が激しく舗装の剥がれも散見され、まして地方の道路状況は未舗装が多く、しかしこれが当たり前とっていた程、当時の我々の感覚は遅れていたのでしょうか。若しくは車が運転出来る喜びに夢中になっていたと言うべきなのかもしれません。

遠征の課題である道路状況、燃料消費量、通過する道々での車とガソリンのサービス体制の調査などを目的として、機械式歪計を積み込んで車に掛かる負荷を測定したり、車内に大きなメスシリンダーを据えて、ガソリンの消費量と走行距離を計って燃費データを算出したりと、出発から帰着までの報告書を作成提出した若かりし時代の思い出が、今日のパーティーのご案内を頂いた時、記憶の断片として取り留めもなく目に浮かんできました。

それから 60 年、今や日本全国の道路が整備され、車が我々の生活に欠かせない存在になり近い将来、自動運転が現実化されようとしています。自動車部での研究対象も裾野が広く複雑化して行くものと思われまます。現役の皆様には面白い研究対象が増えてくるものと考えまます。頑張ってください。

最後に自動車部設立にお力を戴き既にお亡くなりになった諸先生方のご冥福をお祈りすると共に、自動車部関係者、現役の皆様方の更なるご活躍を期待して私のご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

ー 3 乾杯

戸部(元コーチ)

東京都立大学、首都大学東京自動車部創部 60 周年、おめでとうございます。この間多くの卒業生が社会に巣立ち、日本の工業力、経済力の向上に多大の貢献があったと、多くの方から伺っています。誠にご同慶の至りです。

また、現役の学生の皆さんも部活をより活性化させるとともに、卒業の暁には日本の国力の強靱化に邁進していただけるものと確信しております。

では、自動車部と OB&OG 会のますますの発展を祈念して乾杯しましょう。

「乾杯！」

以上ですが、若干説明を加えさせていただきます。

「国力の強靱化」などと言うと、「戸部はちょっと右翼がかっているんじゃないのか？」と思われるかもしれませんが、自分では Global standard と思っています。国も会社も個人も強くなければならないというのが私の持論です。

最近読んだ百田尚樹さんの著書、「日本国紀」に次のような記述がありました。要約しますと、戦国時代のころからヨーロッパの宣教師が日本にやってくるようになりました。宣教師の中には斥候兵の役割を持つ者もいて、訪れた国の状況を国王に進言しました。その国が弱いとみると、

軍隊を送ってめちゃくちゃに略奪、殺戮を行ったのです。典型例がインカ帝国を滅ぼしたスペインですね。スペインの軍隊によってインカ帝国の1600万人の人口が100万人まで減少してしまいました。

一方、日本を偵察したスペインの宣教師は、「日本は人口が多い。人々は鋭利な武器を持っていて(刀や槍のことか?)、城は堅固。日本を攻めるのは無理」と国王に進言したそうです。別の記事でも日本に鉄砲が伝えられた10年後には全ヨーロッパの鉄砲の数より、日本一国が持っている鉄砲の数のほうが多かったとの話もあります。時代は不明ですが、連発式の火縄銃も作られました。

黄金の国ジパングは強かったために、第二のインカ帝国にならずに済んだのです。この状況は現在でも同じと思います。中国が南沙諸島を攻めても尖閣諸島を攻められないのは、日本の海自の戦闘能力が極めて高いためと言われています。

目指せ、強国日本！

ー4 元監督・山口先生からの記念メッセージ

平成31年2月6日

記念パーティーの詳細なご報告メールをお送りくださいます御礼申し上げます。

2月2日に自動車部創部60周年記念パーティーが盛大に開催されたことお慶び申し上げます。特に創部時の渡邊さん、さらに増田さん、戸部さんらのご出席を含めて60名もの大勢の方が参集されたことのご報告、ここに至るまでの役員の方々の皆さんの大変なご努力に敬意を表します。御礼申し上げます。

当日ご出席がかなわなかった君塚さん、さらに渡邊さんはTMUACの伝統を継承するためにOB会の設立を以前から強く願っておられた大先輩方ですので、今回のパーティーが成功裏に開催されたことをさぞ喜んでおられたことと拝察いたします。

添付いただいた出席者の集合写真並びにパーティー資料、特にOB会名簿はよくまとめられており御礼申し上げます。名簿に記載の歴代部員の名前を追い追ひ、若き当時の皆さんの顔を思い浮かべ、数々の苦勞を共にしたことを懐かしく思い出している次第です。

パーティー欠席にも関わらず早々にご丁寧なご報告をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。役員の方々のご努力に感謝申し上げ、これからも益々のTMUACとOB・OG会の発展をお祈り申し上げます。

まずは早々のご報告厚く御礼申し上げます。

平成31年2月14日

60周年記念の資料、CDをお送りくださいますありがとうございます。

これまでOB・OG会のホームページ上で半世紀以上前からの懐かしい写真を閲覧させていただいておりました。今回のCDにはさらに驚くほどのたくさんの思い出深い写真や資料が掲載されており、また部の生い立ちを丁寧に掘り起こされているなど驚きました。

ここまで都立大学自動車部の歴史的資料を詳細にまとめられたことに敬意を表し、関係各位のご努力に厚く御礼申し上げます。

今回を含め何もお手伝いできませんでしたが、丁寧なご対応をいただきましたこと厚く御

礼申し上げます。

役員の方々のご努力に感謝申し上げ、これからも益々のTMUACとOB・OG会の発展をお祈り申し上げます。

まずは暖かいお心遣いに厚く御礼申し上げます。

しゅゑ

ー5 過去の部活動 写真-1



1960 遠征の出発の写真と思われる
工学部の校舎の横を隊列を組んで進む



1967 第1回都立大ラリー 台数多くて2台同時スタート



1968 第2回都立大ラリー 道路向かい側の家はまた木造平屋建て



1968 第2回都立大ラリー



第2回都立大ラリーのコース 深沢校舎をスタートし厚木から相模湖周辺を走って津久井湖でゴール、深沢でフィニッシュとなるコースだった

1969 新歓ドライブ 箱根へ



1969 第15回南紀 能登遠征 工学部正門前から出発
前田先生より出発の訓示 緊張感がみなぎっている



1969 第15回紀伊 能登遠征 まだ余裕がある



1970 春合宿 山中湖畔



1970 春合宿 山中湖



クラウン、ワゴン、1609、アル

1970 府大戦 都立大の主力 ベレルディーゼル



「めずらしい車だね、(府大の人)
「外車だよ、(都立大の人)」

1970 第4回都立大ラリー



深沢校舎
部の練習コース
だったところも駐車
場として使われ、
周囲に高い建物も
増えてきた

1971 春合宿 山中湖



1971 春合宿 山中湖



1971 部室 武蔵大ラリー後



1971 府大戦 戦う前の交歓



1971 府大戦 都立大の部車 後ろは府大の部車



1971 第5回都立大ラリー 今回からナイトラリーとなった



1971 第5回都立大ラリー 計算は手回し式のタイガー-計算機、但し奥の乗員は電卓らしきものを使っている様子



1971 北陸 強化練習 出発前



1971 夏合宿 岳麓山荘



1971 電機大ラリー



1972 ガレージ

ガレージ前も砂利道でした



1972 農大新春ラリー



1972 成蹊大ラリー



1973 春合宿 山中湖



1973 春合宿 山中湖



1973 府大戦 府大の部員と記念写真



1973 夏合宿



1974 合同ドライブ 東女大自動車部と中津川峡へ



問 彼女は何を指しているのでしょうか？

1976 新歓ドライブ



1977 夏合宿 猪苗代



1978 第12回都立大ラリー

最後の都立大ラリー この年は秩父方面で行われ、
閉会式はゴール地点の両神村で行われた



1979 夏合宿 山中湖



1979紅葉ラリー



1980 ナイトハイク



部族に替、ごんぱります、
武衣反り午の白さ。

1981 部内ラリー

ガレージは仮設住宅よりホロいね…
更衣室兼でした



1995 府大戦 東京に迎えて 都立大勝利



1996 ガレージ大掃除



1996 オートランド千葉ダートラ練習会



1998 府大戦
大阪



2000頃 部室 (南大沢)



－6 参加者からの挨拶 -1

記念スピーチ

増田 (1957 年入学)

自動車部創部 60 周年おめでとうございます。また本日はこの会をこのように盛大に催していただいた関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

私は自動車部 (当初は工学部自動車研究会) 発足と同時に入部しましたが、工学部機械工学科が中心になっており (研究会のトップは機械工学科の教員)、活動拠点は工学部の鮫洲校舎にあった。私は工学部工業化学科に在籍していたので、1,2 年次の教養課程では目黒校舎で、3,4 年次には理学部が主体の深沢校舎に通い、日曜日 (当時土曜日にも必須科目の授業が 4 時限 (午後 4 時 40 分までなので)) に鮫洲の活動に出かけていくという状況であった。

当時低学年次生など部員の多くは、運転免許証取得のための運転練習にほとんどの時間を費やしていた (当時部車は中古の中型トラック 1 台のみ)。偶々隣接の自動車運転鮫洲試験場があって、その場所を一時特別に借りて種々の練習を行った。※1

当時の活動で強烈な思い出に残っているのは、創部早々にも拘らず当時としては大胆な計画であったと思われる「紀伊半島一周遠征」である (そもそも「遠征」という文言自体、当時の時代背景が示される)。

初日は 1 日かけて凸凹砂利道の東海道を後続車が見えにくい程の土けむりをたてて走った。

それは当日午前の国道 1 号線、箱根越えの時に、偶然？にも新春恒例の大学駅伝競走(部員の殆どがそのことを知らなかった)と場所、時刻が重複して遅々とした進行で予定が大巾に遅れる結果となった。

※1 当時「小型 4 輪自動車」というジャンルがあり、16 才から資格が認められていたので、私はもの好きにも運転教習所を経て免許証を取得していた。その後そのジャンルは廃止され、自動的に 18 才以上から「普通自動車」のランクに、さらにその後第 2 種免許に変更された。

それは沿道の大勢の応援者、見物人らが当時ではめずらしい我々の車の隊列？(当時最新型黒塗りのトヨペット・クラウン 3 台、ただし中古車)や、車の前後部に臨時に書かれた「都立大」の標識等を観ての彼らの発声や挙動等から、何かのキャンペーンなど別のイメージとして受け取ったり、せいぜい大学として都立大学とは解らず都内にある立教大学？などと思ったようで、我々の行動を理解した人々がどれ程いただろうということと、そのような状況の連続から強い緊張状態で真剣に活動している我々車内の部員とまことに対照的なシーンが度々繰り返された。その後、新しい経験を積み重ねながら、あたかも当時版「弥次喜多東海道中」にも似た精神状態で、やっとのことで静岡県清水に到着した。

この清水に第 1 日目を予定したのは石油大手の東亜燃料工業(株)清水製油工場があり、その工場の指定旅館に我々が宿泊したからであった。翌朝、工場見学の後、我々一行に対して工場長自ら永井教授(後述)によるしくとの挨拶があった。その後、愛知県拳母(コロモ)市(現在の豊田市)でのトヨタ自動車工場見学に続いて和歌山での同じく東燃石油、四日市での大協石油、そして再び東燃清水と各社のご好意によって宿泊、工場見学、ガソリン(合計1801入りドラム缶約 1.5 本分)等々の歓待を受けることができた。当時は自動車部としては新制大学の都立大学としてネームバリューをまだ十分に発揮できず、工業化学科へ東大工学部から赴任してきた“石油”大家の永井雄三郎教授(その後工学部長、総長)のバックアップによるところが大きかった。ここに改めて感謝の意を表すとともに第一回の遠征ができたことは誠に幸運であった。

一方、自動車部として他の一大行事として、創部もない 1958 年の秋の大学祭の際に、当時都立大学本部のある目黒校舎の校庭に、盛大な「自動車ショー」が開催されたことである。総数は決して多くはなかったが、当時の中小型乗用車をはじめ大型のトラック(ダンプ)車も出品され、私はその運転席に乗って高い位置から小型自動車などに対して威圧させるようなある種の異常感をもったことを記憶している。

その後も日本の他地域への遠征が次々に行われたが、やがて「ラリー競技」が始まり、盛んな時代が訪れた。都立大においても非常に活発に取り組み、東大、東工大、慶応大等と肩を並べ、特に学生ラリーの特色をいかして、その主催も見事にやりとげた。

学生ラリーは単なるスピードを伴った競争ラリー※2 とは異なり、ラリーの基本である各地点間、行き先は真近のコマ図のみで、最終着点は明かさない。合計十数区間を指定時間内に正確に到着した合計点により優位を競う方式だが、最も重要な指定の走行速度を一般常識等の基本的設問によって得る方式:いわば知的ラリー(運行中の走行距離、時間より速度の計算)を用いたり、真近の進行地図の細やかさ等が加わった。そのため自動車のリヤウィンドウのスペースに百科事典シリーズを何冊も積みこんだ車はめずらしくなかった。

※2 当時、一般的に盛んとなり、私も日本モータリストクラブ(JMC)に入会して参加を経験

した。

その後、自動車部はしばらく低迷な時期が続いたが、現在の南大沢校舎への移転とともに、立派な装置などが整えられた部室が設けられ、大いなる活躍がなされていることは喜ばしいと共に大きな時代の変化を感じざるを得ない。

時代の推移とともに「自動車」の機能としての意義が変化しつつある現代、自動車部として活動目標、範囲等々の大変難しい選択をしなければならない時代において、現在の自動車部員諸兄の大いなる活躍を期待するところである。

記念スピーチ 「スライドと共に再生されたあの頃」 西(1968年入学)

2019年2月2日、都立大学自動車部60周年記念パーティーに出席しました。パーティー会場は、渋谷駅の中心部に位置する渋谷東急REIホテルの4階フロア。退職して久しぶりに締めたネクタイの窮屈さを伴いながら、何とか身支度を整えて開催場所へ到着。会費を納めて会場へ入ると、自分より若い容姿の面々のなかに、見覚えのある顔を拝見してホッとしました。『やあ！お久しぶり』などと声を掛け合いながら少し落ち着く。



暫くしてパーティーが始まり、岡崎会長のご挨拶と60周年記念パーティーを開催するに至った経緯などを拝聴し、なるほどと納得しました。大先輩の乾杯の音頭で、渴いた喉をビールで潤しながら、おつまみに舌鼓を打つ。宴もたけなわにさしかかった頃、スライドが上映され、あの学び舎でクラブ活動にいそしんだ場面が現れた。当然のことながら、みんな若い。

2部に分けてスライドが上映され、合間に予め割り当てられた出席者の夫々にスピーチを求められた。自分の名前を紹介され壇上に立ち、ほろ酔い気分の助けもあって、断片的ながら当時の思い出を語った。赤いジャンパーを着た先輩に、安く免許が取得できるとの誘いで入部したこと、当時鮫洲にあった自動車部の運転練習場で、廃車寸前の車でクランクやS字カーブ、車庫入れなどを教えていただいたことなどが思い出された。

大学で学んだことは色々ですが、今こうして老いも若きも一堂に会し、共通の話題に興ずることができることに感謝です。同時に、過去の自動車部の歴史資料を体系化し、デジタル化するという大変な作業とともに、DVDとして参加者に配布して頂いたことに、会長以下関係者の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

この先、70周年80周年と、節目節目での開催を願いつつ、今回の感想文と致します。

記念スピーチ 古川(1969年入学)

1969年入学の古川と申します。

思い出話と近況ということなので、50年ほど前の思い出話を2、3したいと思います。

自動車部入部のきっかけは、やはり『1万円で免許が取れる』でして、その年の8月に何とか1万円以下で免許を取得し、免許交付2日目で幸運にも南紀・能登自動車遠征に参加させてもらえる事



に成りました。ルンルン気分で出発し、和歌山県の田舎道で初運転が回って来ました。当時の和歌山県の田舎道はほとんど車も走って無く、真っすぐな道を颯爽と走り出しました。

数十分後に後続車から後輪あたりから煙が出ているぞと連絡が入り、路肩に停車し確認することに成りました。先輩から車を止めてサイドブレーキを引いてから降りるように指示があり、車を停めてサイドブレーキを確認したら、なんとサイドブレーキが既に引かれていたと言う話です。乗った部車はいすゞベレルのディーゼル車で、ごつい車で全てが重く感じられアクセルも同様でしっかりと踏み込んで、サイドブレーキなんのそので走っていたようです。

又、運悪くこの車のサイドブレーキのレバーは、運転席の右側にありました。降りてブレーキドラムを開放することに成りましたが、熱くて触れず冷えるまで待つ羽目になり、ドラムを開放した時もまだ熱く長い待ち時間もあったことから、ドラムがすき焼きの鉄鍋と形状が似ており、諸先輩から『すき焼きを作るか』、『目玉焼きもできるぞ』、と散々冷やかされ落ち込んだ自動車遠征と成ったという苦い思い出です。

幹部の時は、構造担当だったのでやはりラリーの前後には、夜遅くまでピッドに潜り足回りを点検整備したのが記憶にあります。

卒業後は三菱重工へ入社したのですが、私は当時東京の喧騒が嫌で、大きな船づくりと綺麗な海に潜りたいとの思いから長崎を選びました。入社して2年目で初の海外出張があり、仕事を無事終え1974年8月30日に日本へ帰って来まして、12時頃本社へ出張報告の為、東京駅に向かっていたのですが、昼休みに入ると思い手前の新橋に同期の篠君がいるのを思いだし、新橋で下車し連絡を取ったら篠君がいてくれ、久しぶりに昼飯を一緒にしようと言うことになり、彼の事務所に行きました。この日12時30分過ぎに、三菱重工本社ビル爆破と言う大テロ事件が発生し、8人死亡378人重軽傷と言う大惨事と成りました。そのまま本社へ直行していたら、又、新橋に篠君が居なかったら、丁度本社に着いた頃で爆心が玄関入口だったようで、死亡者が9人なっているところでした。この事から人の運命は決まっているので、人生の岐路に立った時、悩まず思い通りに進もうと悟った次第です。

その他長い会社生活での一番の思い出は、イージス艦連続建造プロジェクトに携ったことです。一隻建造の工期は設計3年、現場建造2年の5年工期で、1年で0から船型を造り上げ進水し、1年で機器の運転調整をして引渡します。終盤の半年は毎日の様に海上運転で長崎港を出港し、五島沖で試験をして日没前に帰ってくるわけですが、入港時の夕暮れ時の長崎港の美しさは格別のもので、遠い昔坂本竜馬も同じ景色を見て感動したかと思うと、感慨深いものがありました。

近況は65歳で造船業を卒業し、現在は家内と娘がやる薬局を手伝いながら、孫の成長を唯一の楽しみにしながら余生を送っています。昨年古希を迎え人生の下り坂真っ只中ですが、下るスピードを少しでも遅くするべく、サイドブレーキを引くわけにもいきませんので、下りにブレーキを掛けながら日々精進していこうと思っています。

記念スピーチ 「三つの報告」 小俣(1972年入学)

1)大切な仲間たちに感謝します。私は72年組、今でも年に1回会って、ゆるいつきあいを続けています。これからも、このつきあいを大切にしたい。

2)ているらんぶ記念号・第10号に感激しました。



篠先輩の「全国一乃宮巡り」報告に感激です。壮大なスケールに驚き、まさに目に見えるような報告に感動しました。

3) 都立大学の名が復活します。

小池知事がこれからの都の進展を考え、今都議会を経て来年4月からその名が甦ります。東京都立大学が再生、ありがたいことです。次の70周年を楽しみに皆さん元気をお願いします。

ー7 現役部員の活動報告

池田 (2017年入学)



現役生から、現在の首都大学東京自動車部の主な活動についてお話しさせていただきます。私は今年度主将を務めております2年の池田と申します。

現在、私たちは個人所有車でジムカーナやドリフトといった競技を行いつつ、部内でチームを組み、埼玉県の本庄サーキットで行われている「軽 one 耐久レース」という軽自動車の5時間耐久レースに部車のスズキ・HA23V アルトで参加しています。年3回の本戦とエキシビジョン

マッチの計4戦が年間を通して行われます。学部2年から大学院2年まで、幅広い学年の部員がチームメンバーとして在籍しています。

昨シーズンは、部品の欠落や接触事故によるタイムロスが目立ち、シリーズ全体で満足のいく結果を残せませんでした。特に9月に行われたシリーズ最終戦では、車両の状態は良好で、それぞれのドライバーの調子も上々だったものの、他車との接触・給油のタイミングミスにより総合4位となり、惜しくも表彰台を逃す結果となってしまいました。また、年間シリーズランキングも同じく4位となり、とても悔しい思いをしました。

その反省を踏まえ、先日2019年1月27日に開催された本シーズン初戦に参加してきました。今回は、新しい2年生1人をチームに入れ、下級生の時間配分を増やすという、新体制での参戦となりました。車両のセッティングに対しての不安や、ドライバーの体調についての不安もあったものの、それぞれが安定してタイムを出し続け、ベストタイムを更新することができたため、念願の表彰台に上ることが出来ました！ 周回数294ラップ、総合2位でのフィニッシュとなりました。新体制かつ以前とは違った走行時間配分という状況で良い戦績を残すことができ、チーム一同喜んでおります。しかし、1位の車両とは6ラップの差を付けられており、今後は車両のセッティングを突き詰め、各々のドライバーの運転技術を更に向上させていくことが求められます。試合を重ねるにつれ、厳しい状況になっていくと考えられますが、今後はシリーズチャンピオンを目指し、精進していきたいと思

います。

以上が現在の主な活動である軽耐久についての報告です。軽耐久の他にも、卒業される先輩たちのために行われる2~3月開催の追出し走行会や、毎年7月開催の大阪府立大学との府大戦、9月開催の妙



前主将 伊東

高高原合宿なども活動として行っています。どの活動にも全力を注いでいますが、特に府大戦は、去年は天候不順でノーゲームとなってしまったため、今年こそは勝利を収めたいです。整備・運転技術の向上ともに頑張りたいと思います！

簡潔ではございますが、現役生からの活動報告を終了させていただきます。最後となりますが、去年は、格別のご支援をありがとうございました。今後とも、ご支援・応援のほど、ぜひよろしくお願いいたします。

ー8 過去の部活動 写真-2

2002 6月東大ラリー



2002 オートランド千葉 ダートトライアル



2002頃 飲み会



2002 練習 和田峠



2002 和田峠 クラッシュ



2005 1月 ガレージ前



2014 追い走 茂原サーキット



2017 府大戦 ジムカーナ 筑波サーキット



2017 追い走 茂原サーキット



2018 夏合宿 妙高高原



自動車部の過去の写真、資料をお分けします。

部活動の写真一部と資料の CD-R (写真左)

全ての写真 (jpg) の DVD-R (写真右)

各一枚 1500 円、2 枚 SET でしたら 2000 円 (送料込み)

申込先は 佐々木 ik.sasaki@jcom.zaq.ne.jp

河本 michio_121@mbn.nifty.com へ連絡してください。



ー9 参加者からの挨拶 -2

記念スピーチ 祝 辞

友清 (1975 年入学)

大阪府立大学自動車部 OB の友清です。

東京都立大学・首都大学東京自動車部創部 60 周年誠にありがとうございます。このような栄えある集まりにお招き頂き誠にありがとうございます。



私は 1975 年入学なので卒業から丁度 40 年で、貴部創部 60 周年の節目になんとかご縁を感じています。これまでの先輩方のお話にあったと同様、私も 4 年で卒業できたのが不思議なほど学業での成果はほとんど覚えていない、一方自動車部の活動には殊の外力を入れて数多くの思い出があります。

都立戦、こちらで言う府大戦は一年時、三年時が都立大学主催、二年時、四年時が府立大学主催だったので、一年時には不参加だったことも有り、三年時の幹部時代にだけ東京に来ました。当時関西から出たことのない私だったので、進んだ都会の雰囲気には圧倒されたことを覚えています。今日の集まりでも初の女性主将ということを知り、今日もまた一歩先んじられたと感じています。

当時の府大自動車部は整備大会、フィギュア、ラリーの三本柱に力を入れて活動をしていましたが、特に盛んだったラリーについては三大学(註1)、七大学(註2)等の関西の学生ラリーで常勝を誇っていた一方で、都立戦ではなかなか満足な戦果を挙げられず悔しい思いをしたことを覚えています。そのラリーも最近では開催が困難になり、活動がジムカーナ主体になってきていると聞いて少々残念に思います。

お招き頂いた今日の記念パーティーには、創立当時の先輩方から現役部員の方々まで幅広く参加された盛大な集まりで誠に嬉しい限りです。これを機会に今後我が府立大学自動車部ともこれまで以上に交流を深める事ができれば幸いです。

註1 三大学:大阪府立大学、京都工芸繊維大学、姫路工業大学(現兵庫県立大学)

註2 七大学:大阪府立大学、大阪市立大学、神戸大学、関西大学、大阪産業大学、大阪工業大学、桃山学院大学

記念スピーチ

東京都立大学自動車部創部 60 周年おめでとうございます

～パーティーでのご挨拶の内容に付け加えて～

東京都立産業技術高等専門学校 長谷川 収

2001(平成 13)年度まで工学部機械工学科で助手をしておりました長谷川です。1990 年代半ばごろ、今日の幹事の佐藤剛君から顧問の話をいただき、元々陸上競技部監督であったこともあり名前だけの顧問をさせていただいておりました。何をしたかといいますと、「自動車部が自動車事故を起こしては洒落にもならないので、事故にだけは頼むから気をつける。」と言っていたことだけは憶えております。



そのような私でも、創部 60 周年記念パーティーにお招きいただき、ありがとうございます。大先輩が大勢いらしており、圧倒されました。何十年ぶりですか戸部先生のお顔も拝見し、また近い

世代の卒業生と再会し、大変懐かしく当時を思い出しております。

今日は自己紹介も兼ねまして、自動車部らしく私がこれまで乗ってきたクルマのお話をいたします。それほどたくさんのクルマを乗り継いできたわけではありませんが、まずミニクーパーから始めようと思っております、残念ながらキャブレターではなくインジェクションになってしまった最初の、ローバーのミニクーパー⁽¹⁾に乗っております。

娘が生まれる直前にはタウンエースの最初のノア⁽²⁾にしました。下のグレードにマニュアルトランスミッションの設定がありまして、かみさんに内緒で TRD のスポーツサスに交換したものに乘っております。

その後は死ぬまでに一度は乗ってみたかったアルファロメオの 75⁽³⁾を 10 年堪能しました。家族からは壊れそうで怖いと非難され続けておまして、絶好調だった 75 を手放す決意をさせてくれたのがルノーメガーヌのエステート GT⁽⁴⁾で大事にいまも乗っております。ディーラーがほとんどフランス仕様のまま 60 台だけ輸入した形式が「不明」のモデルであり見かけないクルマで嬉しいです。

この 4 台には共通点がありまして、直列 4 気筒エンジンであることと、マニュアルトランスミッションであることです。いつまでマニュアルトランスミッションで、エンジンを使ってドライビングを楽しめるのでしょうか。自動車業界、環境、燃費と厳しく、さらに AI だの自動運転だのと時代も大きく変わりつつありますが、自動車にドライビングの楽しさだけは残していただけるよう祈念いたしましてご挨拶いたします。本日はありがとうございました。


- (1) ブリティッシュレーシンググリーン の 1.3i、白のボンネットストライプは納車時に剥がしてありました。内装は後付けのウッドパネルで飾り、昔のジャガー Mk. II のような雰囲気にしていました。タイヤは標準のミシュランから K' GRID に履き替えましたらブレーキングの安心感が格段によくなり別の車になりました。とにかく軽くてエンジンパワーはなくとも、キビキビ走る楽しい車でしたが、後ろからよく煽られ散々いじめられました。
- (2) 白で LD というグレード。かみさんが産気づいたときに這ってでも乗り込める車で、マニュアルで、大き過ぎず、使い勝手のよい車ということで購入しました。目的は達成し病院から母子を乗せて帰ってくることもできました。スポーツサスは 20mm だけローダウンされており、かみさんには気付かれませんでした。前のトーションバースプリングは黄色、ショックアブソーバーは緑と、姿は地味ですが、下をのぞくとなかなか派手でした。ツインカム(ハイメカですが)エンジンに 5 速マニュアル、後ろは 4 リンクコイル+ラテラルロッド付きのリジッドアクスルという、子供の頃に憧れていたセリカの 2000GT と同じであったことに密かに喜びを感じ、愛着も湧いていましたが、長くは乗りませんでした。
- (3) ブルー キアロ(煌きの青)という変なブルーメタリック。明るいと見ればブルーなのですが、少し暗くなるとグレーにも見えました。とにかく車体が軽く、音がよく、もっと飛ばせとさきやきかけるような危ない車でした。メルセデスと BMW には散々煽られました。93 年ごろの DTM の怨念でしょうか、155 と勘違いして、ドデオンのトランスアクスルで、重量配分がよく、もちろん ABS などありませんでしたがフルブレーキングでも(バックミラーにタイヤスモークが見えました)まっすぐに止まる車でした。ちょこちょこと壊れましたが、いつも事なきを得ていました。クラッチのリリースバルブ(目的地付近と自宅付近の 2 回)、ウォーターポンプの軸受け(異音で気付きました)、夏場に原因は分かりませんが、突然のエンスト(某スーパー

の駐車場前にて。通りかかった男性が後ろを押してくれて駐車場に突っ込み、救援を待ちました)、パワーウィンドーモーター(助手席が開かなくなりました)、エキゾーストマニフォルド(鑄鉄にき裂。音はよかったです、放っておけば大変なことに)、ウインカーレバー、天井の内装材の垂れ下がり(75によくある症状です)、と枚挙にいとまがありません。パワーウィンドースイッチはオーバーヘッドコンソールにあり、メガーヌに乗り換えても、しばらくは窓を開ける際には天井に向けて右手を高々と突き上げていました。

- (4) ブラン グラシエ(氷の白)。青空の下ではほんのり青く光る白でエステートGTとしては日本に30台(あとはグレーが30台)しかないはずです。トルクが30kgmくらいあり6速マニュアルです。すいすいシフトアップしないと力が有り余って大変ですが、とにかく余裕はたっぷりです。人生初のターボエンジンで、踏み込めばシューーンとコンプレッサーの音が聴こえてきますが、その音をさせるということは公道ではまずいことにつながりますので、普段は特段いい音は奏でません。でもとにかくスムーズです。これほどパワフルでも、燃費は11km/lくらい出ます。ルノースポールがチューニングした足回りは、硬過ぎずやわらか過ぎず絶妙で、連続コーナーでは笑みがこぼれます。前輪駆動のため重量配分は圧倒的に前が重いのですが、ボディ剛性が高い(特にバルクヘッド周辺)せいかハンドリングは自然でよく曲がります。車幅が十分あるためかトルクステアもほとんど感じません。標準ではダンロップのSport MAXXを履いていて、これもよかったのですが縁石に擦ってしまいましてポテンザのS001に履き替えたところ、これがまた車をワンランク引き上げてくれました。惚れ込んでおり他の車(旧アルファとスーパーセブンを除く)が気になりません。永く乗りたいと思っています。(注釈の方が長くなってしまいました。)

記念スピーチ

藤崎(1982年入学)



私が入学した当時は、正式な部活動は計算ラリーをやっていました。部活動を見学に行った際に見た、510ブルーバード、後席用の机、タイガー計算機を見た時の衝撃は忘れません・・・なんだこれはイメージと大分違うぞと言いつつ、「学内に個人車が止められる」という魅力に負けて入部し、そして個人車で通学しました。

部の活動方針はよく言えば伝統を引き継いでいた、悪く言えば時代に遅れ気味だと感じていました。今思えば、個人でやるモータースポーツが変わりつつある時代であり、自動車部の暗黒時代の理由とも思います。

卒業後はブリヂストンに入社し技術センターに勤務。車で走り回れる部署があると聞き、テストコースに転勤させてもらい走り謳歌さらにドリフトさせてお金がもらえる・・・。

仕事としては、タイヤの性能をフィーリングで採点する仕事に従事していたが、3年もすると飽きたものの、その部署から抜け出せなくなりましたが、その後欧州に赴任し欧州の自動車メーカー向けの仕事も経験し、ニユルも走る事が出来ました。

今は部署が変わり、たまにしか走らないがまだ現役部員には負けられないでしょう。

記念スピーチ

大橋 (1995 年入学)



95 年度入学の大橋です。

まずは都立大・首都大自動車部 60 周年、おめでとうございます！


記念パーティーでスピーチさせていただくことになろうとは思ってもみませんでしたが、機会をくれた佐藤君には感謝しております。とはいえ、だいぶ酒が進んでから順番が回ってきたので、とりとめのない話になってしまってすいません(笑)。

都立大・首都大自動車部 60 周年。在学中は部室に残る目黒時代の白黒写真と伝え聞く噂程度でしか昔の自動車部を知りえませんでした。今回の記念パーティーでは改めてその歴史の長さを実感しました。

三年ほど前から三栄書房というモーター系メディアは老舗の出版社……自動車関係の方も多と思うので、ご存じであっていただくと幸いです……で『モーターファン別冊ニューモデル速報』という本を作っていました。いわゆる『～のすべて』という新車本ですね。

自動車関係に進む方が多いので仕事で会う機会もあるかと密かに期待していましたが、残念ながら編集部所属中には叶いませんでした。とはいえ最近では、斎藤君が『ベストカー』誌の誌面に登場していたり、神谷さんがウェブメディアの『レスポンス』に登場していたりと、活躍する姿がメディアに出てきているのは嬉しいかぎりです。

今は『モトチャンプ』というバイク系エンターテインメント誌の編集部におりますので、自動車関係の諸氏と仕事でお会いする機会はなさそうですが、モーター系メディアの末席に名を連ねる者として自動車あるいは二輪業界にいる OB・OG がメディアに登場するのを楽しみにしております。

現役の頃は目黒時代や諸先輩方とのつながりも希薄でしたが、OB 会が出来て都立大・首都大自動車の歴史が繋がったのは素晴らしいことでした。OB・OG 会の発足・運営に尽力された方々に感謝するとともに、これから先も都立大・首都大自動車部が末永く活躍していくよう祈念しております。このたびは 60 周年、誠に


『月刊モトチャンプ』(三栄書房)をヨロシク！

記念スピーチ

吉岡 (2003 年入学)



本日はこのような機会を頂きありがとうございます。芳賀さんの頼みを断れずここに立っております、キャラではないですが、頑張ります。

まず自己紹介。2003 年入学の吉岡と申します。自動車部を卒業して 10 年です。社会人になった 2008 年はリーマンショックや iPhone が発売された年です。

学生時代の車歴は NA6 ロードスター→180sx→NA6 ロードスター(4 スロ仕様)で主にドリフトとジムカーナをやっていました。

都立大として初めて学生フォーミュラに出場した時の初期メンバーとして、車両製作とドライバー担当として活動しました。最近また頑張っているみたいで嬉しいです。

私は現在、栃木県にある本田技術研究所 4 輪 R&D センターで、エンジンの振動 騒音開発を担当しています。少し前に農業でもやろうと独立を考えたことがあります。当時開発中の車を

最後にしようと、上司の言うことも聞かず開発チームと結託して自分の意思を貫き、音の演出をしました。お客様の評判は思っていた以上に良く、やって良かったなと思っています。音振動機能として音を消すことは正しいことです。ただある視点での「正しい」だけを理由にしまうと、エゴイストになってしまう可能性があることを学びました。一人でやるよりみんなでたくさん考えて行くことが大事(そんな訳で独立しようとの考えも無くなりました)。

この度参加させて頂いている OB 会は車好きが世代を超えて一同に会することから、物凄い価値を生み出す可能性を秘めていると思います。

特に現役のみなさんはここに自分の未来予想が沢山あると思って、失敗談や成功談から何か吸収していってもらえると嬉しいです。

改めまして、本日このような会を企画して下さった幹事の皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

記念スピーチ

木城 (2005 年入学)



本日は自動車部 60 周年パーティーにお招きいただきありがとうございます。

私がここに来るきっかけとなったのは、先輩の「今更ながら Facebook 始めました。」のメッセージでした。しばらくぶりに連絡をとり飲みに行き、思い出話が弾む中、また自動車部に顔を出したいなんて話をしました。ちょうどそんなタイミングで自動車部 OB 会の存在と 60 周年パーティーの話があったため、是非参加したいとこの場に来ることを決めました。

自動車部は私の人生の中でも思い入れがある場所であり、そこにもう一度参加できることに感謝しています。この会を設立し、運営されている偉大な先輩たちのおかげです。

今日は懐かしいこと、自動車部卒業生の近況、自動車部の歴史、現役生の活動など多くの刺激を受け、心のガソリンに火をつけられた思いです。

自動車部が今後 70 年、80 年と続きますよう一緒に活動していけたらなと思います。今後ともよろしくお願いします。

－10 首都大学東京応援歌



歌唱指導の篠さん

作詞：山下肇 作曲：永田丕

- 1 青春(はる)という 青春(はる)という 新たなる日は 高きより
勝鬨の歌 ここに在り 丘に出でよ 丘に立てよ

 - 2 今紅顔の 子の眉宇(びう)は 命の光榮(はえ)の あふるる泉
疾風(はやて)と猛り 砂(いさご)けりて 炎々たり 烈々たり
- 闘わんかな この雄叫びに 闘わんかな この雄叫びに
いざ いざ 我等が首都大 若人首都大

ー11 中締め

小島(1967年 入学)

1967年入学の小島です。皆さん、お久しぶりです。

都立大自動車部は真っ赤なヤッケとブルーのヤッケで、府大戦にはいつも勝って、宴会にはいつも負けた。そんな時代に生きた青年が70歳になってしまいました。会場を見渡しますとその頃の青年がたくさん見受けられ救われる思いです。

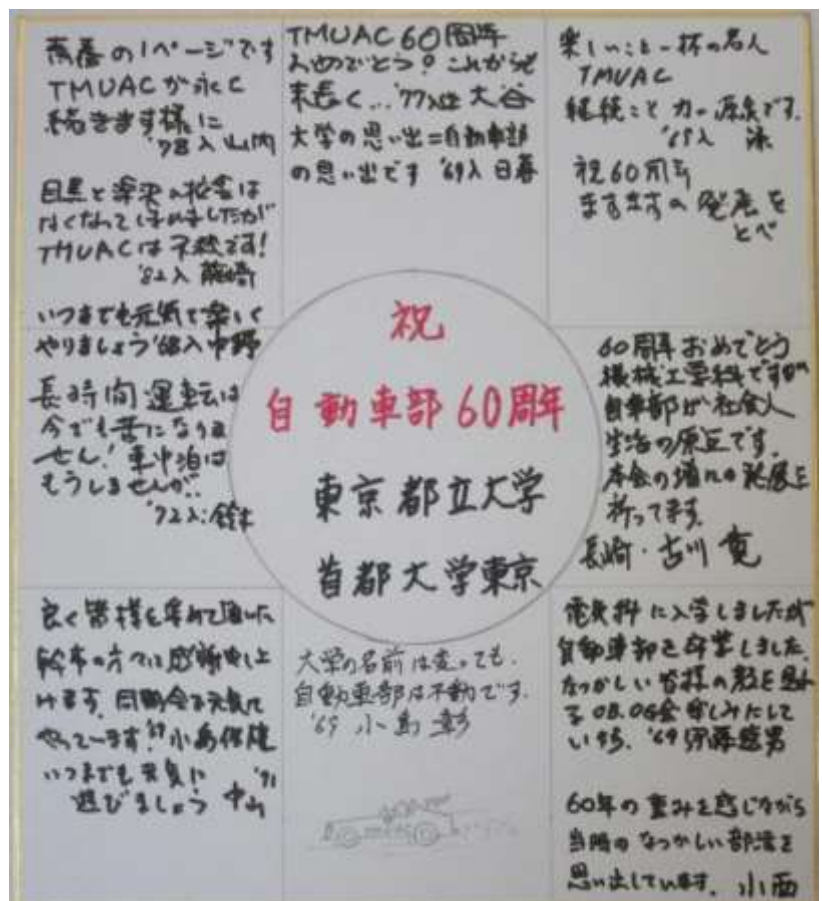
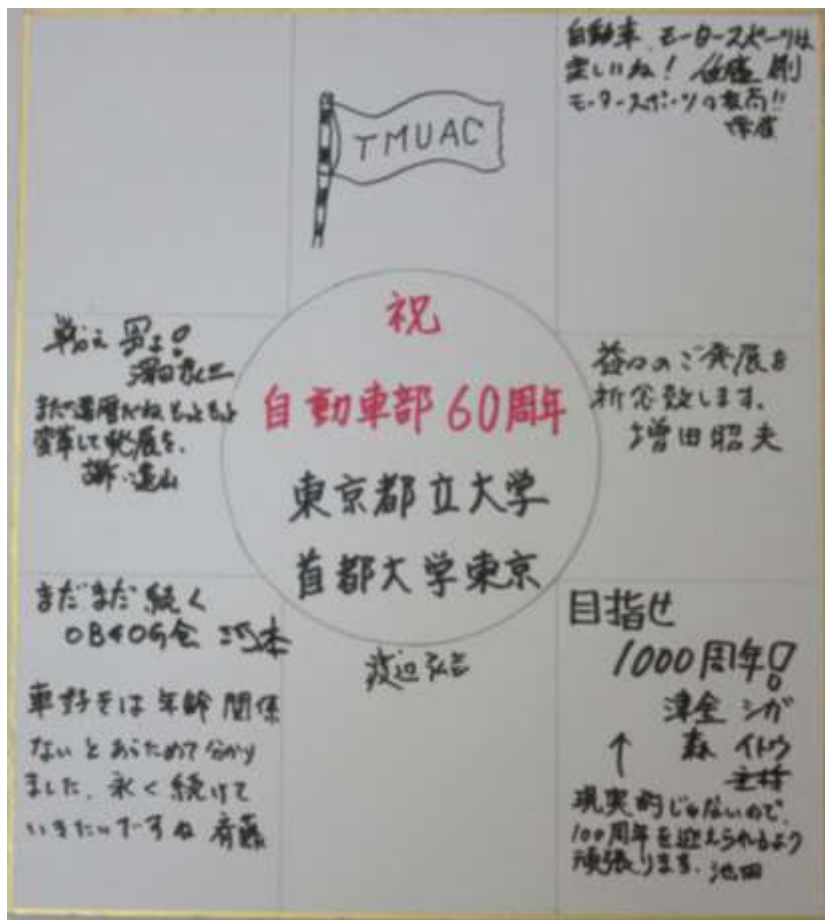
今歌った応援歌については、先の総会でアカペラで歌いましたが、皆さんすぐにちゃんとできました。青春は一度だけです。

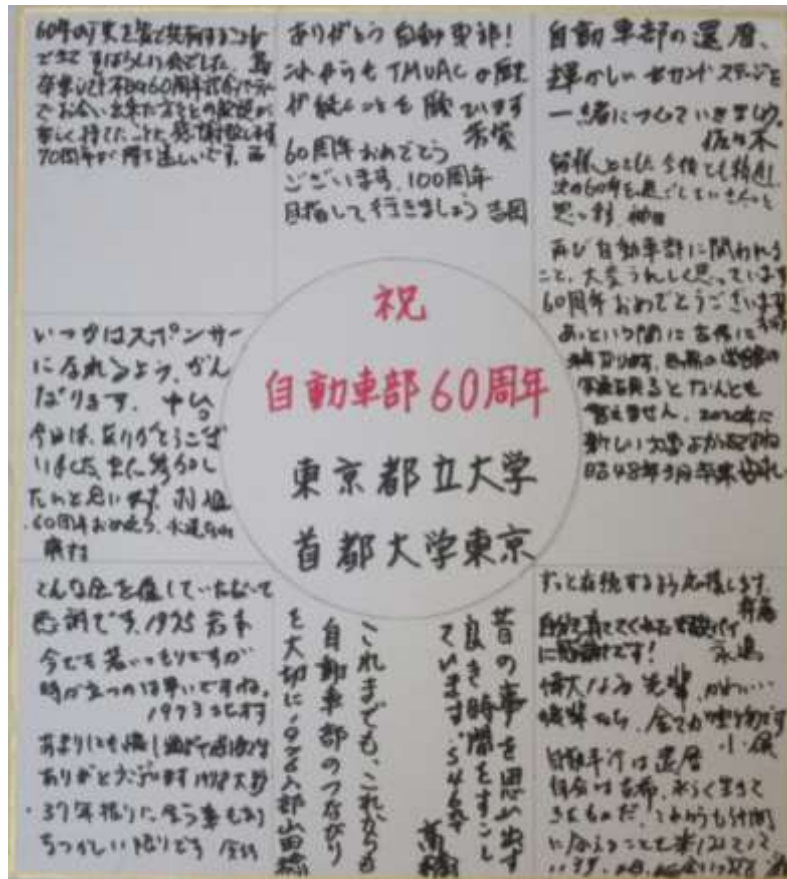
今日は中締めを仰せつかりましたが、応援部に親しくしていた友人がいたので、エールで締めたいと思います。首都大の皆さんには申し訳ありませんが、「東京都立大学自動車 60周年、頑張っていこう。フレイ、フレイ都立、フレイフレイ都立」と唱和していただき、最後は、三三七拍子で締めたいと思います。それでは、ご唱和、よろしくお願ひします。



ー11 集合写真







ー13 参加できなかった方からの連絡

・2018年に卒業しました、伊東（直）です。

現在浜松で研修中のため欠席させて頂きたいと思います。

就職先は本田技研工業でございます。現在浜松にあるトランスミッション工場にて、研修を行なっております。工場は色々な考えの方がいらっしゃるの、日々勉強になっています。配属先はまだ決まっていないのですが、恐らく関東圏になると思います。

浜松よりは東京へ行きやすくなると思いますので、次回の機会がございましたらお誘いしていただけると嬉しく思います。

・田中（千）(1998年入学)

今年も帰国することができません。いつか参加したいと思っています。

近況と呼べるほど変化もありませんが、英国移住から5年経って永住権を取得できました。最近家の修理の方が力が入ってます。そろそろ勝てるチーム入りしたいところです。(注：現在英国のFormura 1 チーム勤務)

・1976年入部 1980年卒業の上海駐在 小林（宗）です。

本来であれば、今年ちょうど春節（中国旧正月）の休みで帰国しているはずでしたが、前日まで仕事のため2月2日の移動となってしまいました。

<旧・都立大学キャンパス見学ツアー>

都立大跡地見学ツアー報告

山崎(1972年入学)

60周年記念事業の一環として、記念パーティー当日の午前中に都立大学跡地を巡るツアーを行った。その様子について写真を中心に報告する。

なお当日の見学ツアーの参加者は、高橋(67年入学、以下同)、大谷(77年)、山内(78年)、藤崎(82年)及び引率者として幹事の佐々木(68年)、斉藤(99年)と山崎(72年)の7名であった。



都立大学駅改札。自動改札になっていたりするが、昔とそれ程変わってはいなかった。



八雲校舎へ向う坂道。記憶に残っている店は無い。



八雲校舎跡地は「目黒区民キャンパス」としてセレモニーホール、図書館及び大ホールなどを備えた複合施設になっている。



通用門跡から区民キャンパスを望む。



通用門跡の向かい側。旭ベーカリー（横断歩道のところ）も更科（一軒置いた奥側）も今はない。



片方だけ残された正門跡で記念撮影。右より佐々木、藤崎、山内、大谷、高橋及び山崎の参加者（斉藤撮影）。



ガレージのあった場所。左側の木はチェーンブロックを掛けた木か？



深沢校舎へ向う坂道。マンションがずらりと並んで当時の面影は全くない。



深沢校舎理学部正門の跡。深沢ハウスというマンション群になっており、当時を偲ばせるものは何も残っていない。



1979年当時の深沢校舎付近の航空写真。



自由通りの交差点。交差点角にあった「千登世」食堂もなくなっていた。



八雲校舎跡へ戻る。隣にあった附属高校も今は「桜修館中等教育学校」となっている。



往時をイメージさせる銀杏並木。間隔が当時より狭いので、もちろん移植されたものだろう。



学生会館があったところ付近。



都立大学駅に戻り、見学ツアーは終了。

<パーティーのスナップ写真>



会場 東急REIホテル



お知らせ案内板



受付風景



受付風景



幹事紹介



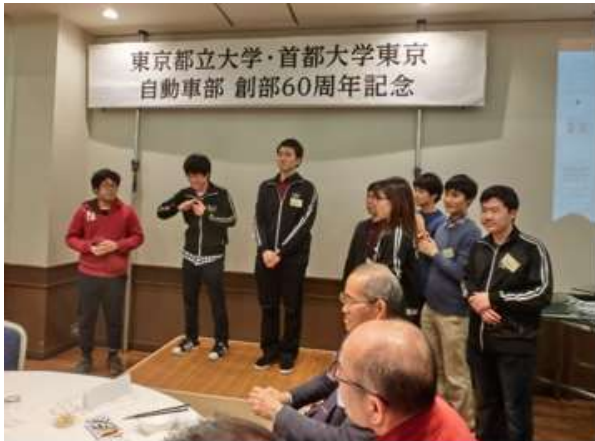
乾杯!



歓談風景



親交を深める



現役紹介



これがユニフォーム



応援歌斉唱



応援歌斉唱



盛り上がる！盛りあがる



そろそろお開き

<編集後記>

「60周年記念行事を終えて」（幹事一同）

岡崎（1968）

60周年記念をする事は、その間になにがあったのか調査し、それを整理する事がないと行事の目的が欠けるとの思いで、昔から今までの資料を集めようと思いました。部室に残っていた資料

以外は少なかったものの、貴重な写真や冊子が集まり、デジタル化出来た事は幹事の努力で出来た事です。

遠征記録を1回ごとにまとめた冊子が何冊もあり、1ページずつデータ化しながら、それを読んでいると作業が遅れると思いつつ読んでみました。昭和40年～44年頃は、国道といえども舗装がされていなかったり狭い道だったので、舗装道路になってホッとしたとか、マフラーを壊したなどと思出す事も多かった。また感想やちょっとした出来事を読むと、トラブルの多い事や面白かった事が記事になっていてついつい読みふけてしまいました。

ているらんぷは1年間の記録としてラリーの参加記録や校外練習の実施の記録が記されていて、毎年の歩みを知る事が出来たのですが、途中で作らなくなったのが残念です。

部活動は毎年少しずつ人が入れ替わるので一年一年の記録を残すことは面倒な事でもあります。反省と共に次世代への改善のメッセージにもなるので現役の部員に伝えたいと思いました。さらに保管していく事も重要だと感じています。それは府大自動車部は部室が洪水で水浸しになり過去の資料が無くなってしまったそうなので、保管方法も部員と相談して後世に伝えられるようにしていくようにしたいと思います。

創設期の先輩から現役までそろったのですが、各年代の人と話す事があまり出来なかったのが残念でした。

小島(1969)

60周年でどの程度の人が集まって貰えるか心配でしたが、盛会となりほっとしています。一番喜ばしいことは、参加して戴いたOB&OGの年代の幅が広がり、仲間が増えたことです。幹事一同で古い資料や写真を整理した甲斐がありました。

河本(1970)

会社を定年退職した後で会社人だった自分を振り返ってみると、自動車部で経験したことが大きく影響していたと感じました。たった4年の経験ですが、高校生から社会人になっていく時期に、いろいろ経験させてくれた自動車部が60年続いているということも多くOB・OGと実感する時間が持てたことに感謝です。企画からホテル探し、資料準備と多くの作業がありましたが、OB・OG同士の絆が深まったことと思います。次回はたぶん10年後でしょうか。

坂巻(1971)

会計担当として当初は『赤字になるのではないか』と大変危惧しておりましたが、多くの方々に参加していただき無事に記念パーティーを実施出来ましたこと、感無量といった気持ちで一杯です。

また、寄付をして頂きました方々には本誌面をお借りし、感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

山崎(1972)

今年が創部60周年になるとの声が出たのが去年1月の幹事会。一年という短い準備期間で大丈夫かなと若干の不安はありましたが、最終的には盛会の記念パーティーとすることが出

来て本当に良かったと思います。

佐藤(1995)

大勢の OB の方々が旧交を温めているのを見て、改めて自動車部の長い歴史を感じました。先輩方の様々な取組みのおかげで、充実した楽しい自動車部の 4 年間であったのだと感謝しています。ありがとうございます。

斉藤(1999)

どの世代の方々も卒業してから何十年経っても、在学時の自動車部活動を楽しそうに語る姿が印象的でした。こういったつながりを大切にしていきたいと改めて思いました。

芳賀(2000)

大学時代に走り込んだ方々と久々にお会いできてとても嬉しかったです。仕事が忙しいとは思いますが、また機会を見つけて集まりましょう。

佐々木(1968) 編集担当

「自動車部という仲間のきづな」によって、世代を超えた「車好き」が集まり、独特の雰囲気の中で語りあう楽しみを存分に味わうことができました。改めて、我が自動車部に対する「誇り」が強く蘇りました。

小西(1967) 「創部 60 周年記念パーティーの裏話」

創部 60 周年記念パーティーが盛会裏に終了したが、構想から開催まで約 1 年の準備期間中に「監査役」の目を見た感想を述べてみる。

岡崎会長は大阪府立大学へのコンタクト、参加要請を担い、粘り強いメールのやり取りの結果、府大自動車部 OB 会を代表して友清氏に御出席いただけた。

OB・OG 会員への連絡や当日の運営などの実務面は河本、小島両副会長の努力に負うところが多かった。中でも、部室に残っていた大量のアルバムから部活動の写真を電子データに取り込み、1960・1970 年代に発行された部誌「ているらんぷ」の PDF や各種資料とともに CD にコピーして参加者へ配布できたのは良かった。

また、パーティー会場の選定、打合せには佐藤幹事が当たった。参加人数が未確定の段階で価格交渉を開始し、料理の内容や会場設営など何度もホテル側と打合せた。

全体の会計は坂巻幹事が担当し、限られた予算で最大の効果を出せるよう算盤を弾き、足を出さずに済ませた。

更に、当日は旧キャンパス跡地見学ツアーも実施して佐々木、山崎、斉藤の 3 幹事が引率し、会場の受付や案内には芳賀幹事も当たった。

このように今回の記念パーティーでは、企画、交渉、運営面で半世紀前の部活動で培われた組織力が見事に発揮され、大勢の OB・OG 会員の出席につながったものと思った。

以上